

福島県現代俳句協会会報

第7号 2021年・夏

編集 福島県現代俳句協会会報編集部 春日 石疼
福島市八木田神明十三の八 090(6220) 4757

令和3年度県現代俳句協会総会開催

会員拡大を進めよう

全議案を可決

令和3年度福島県現代俳句協会総会は、四月十八日(日)一時から、福島市のアオウゼにて三名の会員のうち十四名の出席、二十一名の委任状にて開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から書面議決でしたので、二年度の開催でした。なお、総会に先立って役員会が開催され、総会議案の協議を行いました。

総会では、今年一月に亡くなった前事務局次長の佐藤弘子さんの冥福を祈って黙禱をしたあと、春日石疼会長が議長となり、五つの議案が討議され、全議案を全体の拍手で確認しました。

討議では活発な意見や要望が出されました。特に、会員拡大については多くの意見が出されました。「若い人たちの掘り起こしについて具体的な方策を考えよう」「カルチャーセンターの講師をしている会員から、生徒への働きかけをしてはどうか」「昔からカルチャーを続けている生徒

よりあたらしく参加した人へは声がかげやすい」「高校や中学校の文芸部などに会報を送付して、興味をもってもらおうのはどうか」「県協会に入っていない全国のみ会員への働きかけ」「各地域での俳句会での勧誘が大事。コロナ下では通信句会が有効」「広く県民に興味を持ってもらうために講演会開催を」などの意見が出ました。若年者・学生には入会金・年会費の特典があることをもつとアピールしていきたいと思えます。(4ページに詳細を書いておきました)

また、「吟行などの案内文には担当者の電話番号やメールアドレスを記載してほしい」「役員には是非女性の登用を考えてほしい」などの要望も出されました。今年度の吟行先も県内の各地方から集まりやすくするために、県中地域を念頭に選考していくことが話し合われました。

役員改選も議決され、監事の鈴木満喜子さんが退任されました。長い間監事の任を担っていただいたことに感謝申し上げます。以下のような新体制になります。

【新役員】

顧問	鈴木正治
会長	春日石疼
副会長	江井芳朗 池田義弘
会計	大河原真青(新) 植木國夫(新)
事務局長	宇川啓子
事務局次長	阿部多み子 高市 宏(新)
監事	木幡テイ 丹羽裕子(新)
地区代表	久保羯鼓(県北) 石澤 遥(県中) 加藤征子(県南) 平子玲子(浜通) 田中雅秀(会津)

福島県現代俳句協会 令和3年度事業計画

●会員の交流と研鑽を 目的として

1. 県会報の季刊発行と
内容の充実
2. 吟行句会の開催
(10月頃予定)

●全国的な取り組みに 参加

1. 東北大会(岩手)
9月25日
2. 全国大会(東京)
10月30日

●会員の拡大

1. 県内俳句愛好者への
働きかけ
2. 俳句愛好者の新規開
拓～ことに「青壮年」
への開拓

会員作品7句

雀

櫻井 潤一 (会津若松)

戯れの初めは山河落の薑
垂乳女の大緑陰にまさりけり
てふてふを遊ばせている山頭火
満山に命の宴蟬時雨
日本のいつも時雨ていたりけり
冬天や雀の高み思ひつつ
雪国よ饒舌を愧ず静寂かな



ガラス戸

カズオ (福島・「小熊座」)

啓蟄や坂を上がれば雲ふたつ
あのとときはたんぽぽのこと忘れおり
春の碑にほんとうの空うその空
薫風にガラス戸抜ける祖霊かな
ガラス戸のくもりガラスはさくら色
ガラス戸のカタコトカタと五月風
ガラス戸の棧も瘦せおり梅香る

のほほんど

鵜川 伸二 (郡山・「海原」)

呆気なく砲々の花粉症のやつ
初鯉類の中まで追ふ五匹
空元気にエンジン掛かる初夢を
ピクニックちひさいころは家族です
早彼岸水たんとめ不幸者
簡単な卒業式の盛上り
のほほんどはうれんさうの浮く暖簾



葦の角

高市 宏 (郡山・「桔槔」「小熊座」)

余震来て雛は箱にもどさるる
我が墓に椿の花の落つる音
決壊せしダムに慰霊碑葦の角
葦の芽や小学校は廃校に
呼び合ひて葦の角組む遊水地
葦牙や聖火リレーは手を振つて
風光る聖火リレーのトーチキス

ささやき

永瀬 十悟 (須賀川・「桔槔」きっこう)

縄文の壁画を抱き山眠る
モナリザのくちびる冬とささやけり
被曝地やもう愛されぬふきのたう
大余震崩れし雛が灯に揺れる
神もまたふるへてをりぬ春の燭
三月の海トリトンの法螺響く
春の雨濡れたき鳥が羽開く

石と水

阿部 ゑみ子 (福島・「小熊座」)

野仏の千手ことごとく桜
隕石も神となるなり半夏生
北斎に一生の藍梅雨の底
ハンカチを噛んでピカソの「泣く女」
きらめきて小石は鱗夏の川
八月や石に吸われるものの影
花芒石つこ賢さんまたかがむ

県会員作品一句鑑賞

海底まで良夜なるべし激戦地

鈴木 満喜子

様々な感銘句と出会っては薄まってゆく健忘症の私が、ずつと心の中に残り続けて、忘れてはならないと思り返す一句です。

あらゆる激戦地となった海底には、今も浮かばれぬ無念の御霊がたゆたうている。「良夜なるべし」に込められた作者の深い鎮魂と平和の祈りが、月光に照らされて届く。

第四十四回現代俳句全国大会の六十年記念賞、金子兜太特選を受賞されました。(平子玲子)

水引は送葬の譜かほろほると

佐藤 弘子

掲句は令和二年十月、弘子さんが小銀座に投稿した最後の作品の内の一句である(掲載は十二月号)。私が最後に彼女にお会いしたのはその秋の福島市での句会であった。不自由になってしまった手を抱え、娘さんの押す車椅子で句友に挨拶をされていた。

掲句からするとすでに死を予感していたのであるうか、水引草の寂しげな花は自分への葬送曲の音符のようにだと凝視しているのだ。改めて心からご冥福をお祈りいたします。(大河原真青)

私を変えた一句

愛されずして沖遠く泳ぐなり

藤田 湘子

この句は「鷹」主宰藤田湘子が水原秋桜子主宰の「馬酔木」に入会して数年後、師の勘気に触れて苦しんだ時代の一句で、師を慕い真剣に学ぶ中で葛藤の様子を詠んでいます。師弟の道は恰も恋に似て、この句を最後として青春を抜け出したと湘子は述べている。

原稿依頼は「私を変えた一句」でしたが、何故かこの句が浮かんだのです。数多くの師の中で、私にとって湘子師は特別の存在で、多くの努力と研鑽を重ねて挑戦を続けられた姿勢に感服しています。指導句会の折は二人一人と糸電話で繋がっているとおっしゃって師弟関係は温もりがありました。

作りながらわかってくるのが俳句である。マンネリになるな。昨日の自分に飽きる。有りうべき嘘をつく。形式美を大切に。硬質な抒情を。等々の教えは全てが途上です。俳句の楽しさを広めつつ、日々の生活に俳句心と俳句眼を失わずに俳句を通して仲間作りや地域作りをしていきたいものです。

石澤 遥 (郡山市)

みづから遺る石斧石鏃しだらでん

三橋 敏雄

三橋敏雄の俳句を初めて読んだのは、平成二十年頃だったか、大正九年生まれの敏雄はすでに故人だった。池田澄子さんの文章「師 三橋敏雄」を読んだのがきっかけだった。励まされ俳句モードに変わった。

「しだらでん」は古語で大風雨の意。無季である。平成八年に刊行された第六句集のタイトルは掲句から採用している。しだらでん、と言いながら静かな景だ。太古、私たちの祖先がつくり使った石器。つくった人間がいなくなったのちの世に遺るもの。

つくった人間がいなくなったのちの世に遺るもの。「今や有餘るブルトニウム秋の暮」(しだらでん)「あやまちはくりかへします秋の暮」(壘の上)このような俳句を読むとき、東日本大震災を知ることなく鬼籍に入った三橋敏雄が書いた秋の暮とは、人類史のたそがれのことではなかったかと、その文脈で読むと怖い。

いや、やはりこの句を読むとき、社会的な背景や事象は必要ないのだ。詠み人は消え、普通のテーマが現前するのである。

「待ち遠しき俳句は我や四季の國」(長濤)幾時代の大風雨を経ても四季の国に遺る俳句を、と敏雄は自らを励ます。

佐川 盟子 (白河市)

私の好きな季語

「梅（野梅）」 加藤 征子

百花にさきがけて清々しく香り咲く梅の花は心をなごませる。

梅二月ひかりは風とともにあり

まざと中年心の闇に梅ひらく

子規に律賢治にとし子梅真白

勇氣こそ地の塩なれや梅真白

気品高く香りたつ梅の花に心情を托した句で、

西島麦南 楠本憲吉 近藤山潤子 中村草田男

の句。表現の多様さは『万葉集』から詩歌に
絵画に詠まれ描かれての歴史の裏うちがあつ
て奥深兜がけて咲く野路の梅の花、「探梅」
は冬の季語だが、野趣ある梅の花は今あまり
目にしない。

端正に薄墨で書かれた鬼房先生の俳句を今
の節に必ず飾る。

第七句集『潮海』二七四句の一句

野梅佳し頭越しに風のやや荒び 鬼房

この句は私にとって梅の概念を変えた一句で
ある。歳時記の例句には「野梅」はあまり取
りあげられていない。

今朝見上げた通りの梅の花の香りは心もと
ない。

白梅の青きまで咲きみちにけり 小坂順子

前号会報より

この句がよかった！

服部 きみ子

ぷりぷりと妻若くあれマスカット 湯田一秋

奥様への愛情が伝わって来ます。いつまでも元氣
に傍に居て欲しいと言う願いが込められております。
共にお健やかにとお祈り致します。

潮騒の如く落葉を搔いてをり 渡部 健

落葉をはき集めている時、潮騒の如くとは驚きま
した。落葉の軽やかさと乾いた感じが共感です。

しわぶきをひとつ古里棄てる覚悟 植木國夫

大きなしわぶきが聞こえて来ます。大きな決断を
迫られております。望郷の念を断ち切らなければな
らぬ切ない思いが感じられます。

鯛雲ちぎれたままの家族なり 宇川啓子

被災からの家族のかたちでしょうか。離ればなれ
になった家族の暮らし様がうかがわれます。若い人
達も大変でしょうが、年輩いた親達も若い人達に迷
惑はかけられないと必死です。

心臓の輪郭であり月であり 八島ジュン

狭心症を患っている私ですが、心臓から月への転
換がお見事。この世をさらりと生きてみたいもので
す。

●現代俳句協会の入会金と年会費●

○入会金

50歳未満 無料 50歳以上 5000円

県のみ会員（県にのみ加入し、全国に加入しない） 無料

○年会費（普通会員）…本部より毎月「現代俳句」誌が郵送されます

30歳未満 なし 30歳以上40歳未満 3000円

40歳以上 10000円

（30歳以上で学生の方はそれぞれの年齢に該当）

上記に加えて県会費1000円を県協会にお支払いいただきます

（全国のみに加入し、県協会に加入しない方は1000円は不要）

○年会費（県のみ会員）

2000円（年齢にかかわらず）

県も楽しい
ですよ！

《編集後記》

令和3年度の総会が無事終わりました。皆さん大変
協力的に活発なご意見をいただき、盛会でした。新
型コロナが収束し、会員が気兼ねなく参加できるよ
うな状況になる日を心待ちに待っています。皆さん
お元気にお過ごしください。
(K・S)